

京都市産技研 平成27年度当初予算の概要について

1 予算編成の基本方針

京都市産業技術研究所（以下「産技研」）は、複雑化、多様化する企業のニーズにこれまで以上に迅速かつ的確に対応するため、平成26年4月から地方独立行政法人へ移行した。

これにより、大幅な裁量権が産技研に付与され、事前統制から事後評価に変わるとともに、業務運営に必要な経費は、京都市から運営費交付金として交付され、これまでにない弾力的な執行が可能となるなど、具体的な業務運営が産技研の自主性・自律性に委ねられることとなった。

産技研においては、平成27年度予算編成に当たり、京都市が設定した中期目標の達成に向けて策定した中期計画・年度計画を推し進め、利用者の満足度がより高い公的な産業支援機関の実現を目指すため、以下の事項に重点を置いた予算配分等を行うこととする。

2 当初予算の概要

(1) 収入

| | 平成27年度予算 A | 平成26年度予算 B | 増△減 A-B |
|----------|--------------|--------------|------------|
| 運営費交付金 | 931,081 千円 | 966,630 千円 | ▲35,459 千円 |
| 施設整備費補助金 | 60,000 千円 | 81,600 千円 | ▲21,600 千円 |
| 自己収入 | 165,346 千円 | 90,985 千円 | 74,361 千円 |
| 合計 | 1,156,427 千円 | 1,139,215 千円 | 17,212 千円 |

(退職金は除く)

(2) 支出

| | 平成27年度予算 A | 平成26年度予算 B | 増△減 A-B |
|------------|--------------|--------------|------------|
| 人件費 | 642,000 千円 | 689,159 千円 | ▲47,159 千円 |
| 研究開発費 | 109,310 千円 | 76,479 千円 | 32,831 千円 |
| 技術指導／依頼試験 | 6,522 千円 | 6,955 千円 | ▲433 千円 |
| 機器整備 | 89,088 千円 | 90,066 千円 | ▲978 千円 |
| 知恵産業融合センター | 11,703 千円 | 11,703 千円 | 0 千円 |
| 人材育成 | 19,220 千円 | 18,946 千円 | 274 千円 |
| 一般管理費 | 278,584 千円 | 245,907 千円 | 32,677 千円 |
| 合計 | 1,156,427 千円 | 1,139,215 千円 | 17,212 千円 |

(退職金は除く)

人件費については、適正な人員配置に見直したこと等により削減を行い、また、一般管理費については、産技研のシステムを司る本体サーバが更新時期をむかえていることから、更新費用を計上するなど増額となっている。一方、研究開発費については、以下の重点事項等を推進していくため予算の増額を図り、中期計画、年度計画を推進するため、積極的な予算配分を行った。

3 当初予算の重点事項等

(1) 中小企業等の下支えとなる技術相談及び試験・分析の充実

6,522千円（平成26年度予算 6,955千円）

ア 技術相談

相談者に課題解決の糸口を具体的に指導し、その解決を図り、中小企業等の技術の下支えとなる技術相談を充実するため、必要な予算を確保する。

イ 試験・分析

産技研の得意技術・固有技術を生かし、試験結果等から導き出された課題解決のための糸口を具体的に指導し、中小企業等の下支えとなる試験・分析を充実するため、必要な予算を確保する。

(2) 中小企業等の成長支援や下支えのための研究開発の推進

研究開発費 109,310千円 (平成26年度予算 76,479千円)

知恵研究開発支援費 5,000千円 (平成26年度予算 5,000千円)

※5,000千円は、知恵産業融合センター予算11,703千円の内数

ア 研究開発の拡大と計画的実施

中小企業等のニーズや京都市の産業振興施策、市場動向等を的確に把握し、基礎的研究から事業化・製品化につながる研究開発までを計画的に推進するため、重点的研究、共同研究、一般研究及び競争的資金研究等を総合的に拡充することとし、必要な予算を確保する。

※ 重点的研究：政策研究、カルティヴェイション研究及びパイロット研究（知恵産業融合センター枠を含む。）

【平成26・27年度の研究開発予算の比較】

| | 平成27年度予算 A | 平成26年度予算 B | 増△減 A-B |
|---------|------------|------------|----------|
| 重点的研究 | 22,985千円 | 24,026千円 | ▲1,041千円 |
| 共同研究 | 15,832千円 | 2,500千円 | 13,332千円 |
| 一般研究 | 7,913千円 | 8,352千円 | ▲439千円 |
| 競争的資金研究 | 56,336千円 | 36,581千円 | 19,755千円 |
| 受託研究 | 4,000千円 | 4,000千円 | 0千円 |
| その他 | 7,244千円 | 6,020千円 | 1,224千円 |

イ 重点分野における研究開発の推進

中期計画において重点分野に位置付けた「成長が予想される分野」や「中小企業等の下支えとなる分野」において、さらに研究開発を推進していくための予算を確保する。

<成長が予想される分野の研究開発>

① エコグリーンイノベーション

- 次世代省資源・省エネルギー型製品の量産技術の確立に資する、高硬度・低熱膨張電鍍（電気めっき casting）技術を活用した高精度・高耐久性金属の製造に関する基盤技術の開発
- セルロースナノファイバーを用いたグリーン高機能製品の実用化開発
- 水素吸蔵合金を利用した水素標準化基盤技術の開発
- 金属-酸化物複合体の構造制御による新規高機能性の発現
- LEDの更なる高効率化・省エネルギーを図る新たな高放熱性セラミックス基板材料の開発
- めっき・電鍍技術を応用したマイクロ・ナノ微細3次元（3D）構造体製造プロセス開発のための基礎的検討

② バイオライフイノベーション

- 清酒酵母性能評価システムの開発 ～呑み方提案型酵母の開発～
- バイオ計測技術確立のための分析装置及び試薬群の開発
- 高品質発酵食品製造に適した乳酸菌の選抜

③ 京都高度伝統文化イノベーション

- 三次元デジタル等の新規機器を用いた文化財修復研究および商品開発への展開
- 先進分析技術を活用した新しい京焼・清水焼用無鉛上絵具の創成

- 伝統工芸品鑑賞の”コツ”の科学 ～感性工学を活用した製品評価手法の研究～
- 京ものエントリーモデル開発プロジェクト
- 売れるものづくり支援事業

<中小企業等の下支えとなる分野>

- 特定芳香族アミンをはじめとする繊維製品に含まれる物質の法規制への対応
- グローバル・ニッチ・トップ企業技術イノベーション
～金属・セラミックス中ガス分析研究の高度化～
- 固体試料直接分析法による溶液分析法の新たな展開
- 新規触感センサの製品開発研究
- 複合素材を同時染色可能な新規インクジェット捺染技術の開発
- 安全安心な商品のためのAR技術

ウ 共同研究及び競争的資金研究の拡大

産技研が保有する技術等の企業移転や産官学連携の推進などによる中小企業等の技術革新や新事業分野への進出，新産業の創出に積極的に取り組むため，共同研究及び競争的資金研究を拡大することとし，予算の大幅拡大を図る。

(3) 知恵産業融合センター事業の推進 11,703千円（平成26年度予算 11,703千円）

京都の伝統技術と先端技術の融合による新たな京都ブランドの創出や新技術・新製品の開発，企業マッチングの促進，販路開拓の強化をより一層推し進めるため，京都市からのマイナスシーリングを反映せず，平成26年度と同額の予算を確保する。

○製品化に向けた研究開発支援

- ・試作・製品化に近い研究開発への支援（上記(2)ーアに含まれる。）
- ・産技研と研究会会員企業等との研究開発 …新規事業：竹の染色見本作成 等
- ・マーケットイン型事業の構築と推進 …新規事業：売れるものづくり支援事業

○企業マッチングの推進

- ・産業支援機関等との連携強化による企業情報の一元化
- ・企業情報の内容充実による企業マッチングの推進

○情報発信

- ・「知恵創出 “目の輝き”」企業の認定と成果発表会の開催

(4) 伝統産業技術者等の育成の推進 19,220千円（平成26年度予算 18,945千円）

伝統産業においては，新たな展開に向けて，基礎研修から応用研修，さらには新商品の企画・立案までを体系立てた計画的な研修を実施する必要がある，京都市からのマイナスシーリングを反映せず，必要な予算を確保する。